

## 令和元年度 青葉区障害者自立支援協議会 取組状況

## ○実施状況

会議	年間実施 予定回数	主な内容・議題等（簡潔に記載してください）
(1) 全体協議会	1回	高齢分野・障害分野それぞれの活動状況, 国見地域課題ワーキングの取り組みなどについて報告や意見交換を行う。
(2) 実務者ネットワーク会議	2回	障害者の権利擁護や顔の見えるネットワークづくりの観点から, 以下のテーマを掲げて実施 第1回 『障害のある当事者の声から学ぶ ～“その時”支援者としてどう関わるか～』 当事者3名をゲストスピーカーに招き, 講話をいただく中で支援のあり方について参加者間で共有した。 第2回 『障害者の就労支援はどうなっているのか!? ～現場からの報告～』 就労移行支援事業所である manaby 仙台駅前事業所にて事業内容の紹介を行ったほか, 障害者就労支援センターの役割や障害者雇用の現状についての講話を受け, G S Vでの事例検討を行い就労支援の理解を深めた。
(3) 障害者相談支援事業所等連絡会議	11回	重点的に関わる対象者に対して継続的な支援が展開され, 相談支援の強化が図られるよう, 専門機関も交え, 個別課題の抽出, 解決方法等の意見交換を行った。
(4) 精神保健福祉部会	4回	「医療中断に至る背景」として抽出された項目について“好転事例”を持ち寄り, 多面的な見方のヒントや具体的な支援方法のアイデア等に関して活発な意見交換がなされた。
(5) 地域課題ワーキング	4回	対象地区を絞り地域で行われている会議等に参加し, その地域の支援者との関係性構築を通して「重点的に関わる対象者」への支援につながる地域の強みや課題を把握できるか検証した。
(5) 運営会議	12回	各会議体の進捗管理や地域生活支援拠点モデル事業の運用について検討を行った。

## 1 今年度の主な取組み

### ○障害者相談支援事業所等連絡会議（以下、連絡会）

毎回、事例検討を行う重点的に関わる対象者のケースを1件取り上げ、困難ケースの背景にある要因を分析し、課題の共有化を図るとともに、事例検討以外の重点的に関わる対象者についても共有シートを活用してフィードバックしていった。

### ○精神保健福祉部会

昨年度の部会で整理した医療中断に至る背景を踏まえ、「医療 - 福祉 - 本人の関係性の問題～好転事例から医療継続を支える背景や要因を探る～」, 「満たされない生活ニーズ・心理発達の課題」, 「家族の愛情 - 理解 - かかわり方のアンバランス」, 「継続せず積み重ならない支援」という4つのテーマを設け、継続した支援の実現へ向けた意見交換を行った。

### ○実務者ネットワーク会議（以下、つどい）

第1回は昨年度好評であった当事者を招いての講演を行い、障害者自身が日々の暮らしの中で感じていることなどを触れることができ、反響も大きかった。

第2回は今まで取り上げることがなかった障害者の就労支援を取り上げ、就労移行支援事業所の事業紹介、障害者就労支援センターの役割や障害者雇用の現状について講演いただいた。それにより、就労支援に関する知識を支援者間で共有できたほか、参加者からは勉強になったとの意見が多く寄せられた。

## 2 現状における課題（地域ニーズや課題、協議会運営上の課題など）

連絡会にて事例検討や共有シートに基づく情報交換等行うことで、事例を深め、解決に向けた個別支援が図ることができるケースが現れ、一定の効果があった。その一方で、重点的に関わる対象者はサービスに乗りにくいことから、サービス利用を前提とした指定特定相談支援事業所からの参加は低調であり、区全体で意義や目的を共有できるようにすることが課題である。

つどいのアンケートで当事者の講演は好評であるが、テーマに関する意見は多岐にわたっており、「重点的に関わる対象者とならないための体制づくり」につながるように、参加者の興味を引き、支援者の役に立つ内容の企画が求められている。

地域課題ワーキングを通じて「重点的に関わる対象者」に支援が届くための体制作りには、障害のある方にかかわらず、すでに地域にある、地域になじみがある仕組みの活用が有効であると考えられる。その仕組みの中にどのようにして障害のある方への支援のエッセンスを加えていき、支援の共有を積み重ねていくかが課題である。

## 3 課題に対する次年度以降の取組予定

重点的に関わる対象者へ効果的支援の届く体制作りに向け、引き続き下記の3段階に分けた体制整備を念頭に各会議体の運用に臨む。

第一次体制…重点的に関わる対象者とならないための体制作り

第二次体制…重点的に関わる対象者が早期に支援機関につながるための体制作り

第三次体制…重点的に関わる対象者が適切かつ継続的な支援を受けることができる体制作り

## 令和元年度 宮城野区障害者自立支援協議会 取組状況

### ○実施状況

会議	年間実施 予定回数	主な内容・議題等（簡潔に記載してください）
(1) 全体協議会	1 回	<p>H30 年度より区地域ケア会議と合同開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 区地域ケア会議，区障害者自立支援協議会の活動報告</li> <li>・ グループワークによる意見交換（区地域ケア会議と合同開催）</li> </ul> <p>グループワークテーマ：「高齢者と障害者が共に暮らす世帯への関わりを考える」</p>
(2) 実務者ネットワーク会議	4 回	<p>① 全体会（1回）</p> <p>テーマ：障害のある方の高齢化について理解を深める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第1部 当事者家族や支援者によるシンポジウム形式の講話</li> <li>・ 第2部 グループでの意見交換</li> </ul> <p>② エリア会（区内3エリア各1回）</p> <p><b>【鶴ヶ谷エリア会】</b></p> <p>テーマ：「障害のある方の地域生活をイメージしよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活場面での配食サービスの試食とグループホーム，仕事場面での施設作業見学</li> </ul> <p><b>【幸町エリア会】</b></p> <p>テーマ：「地域の気になる方への平時及び災害時の支援について」～地域の連携と支援体制づくり～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パネルディスカッション，勉強会意見交換会</li> </ul> <p><b>【岩切・高砂エリア会】</b></p> <p>テーマ：「障害のある方やそのご家族と一緒に食事をしながらお話ししてみませんか」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ エリア内で活動している当事者団体との調理，会食及び参加団体の PR</li> </ul>
(3) 障害者相談支援事業所等連絡会議	12 回	<p>今年度より，偶数月と奇数月で内容を分けて開催</p> <p>偶数月：相談傾向の共有と地域課題の抽出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各事業所から相談傾向や個別支援における課題の報告，情報交換や意見交換</li> <li>・ 昨年度集約した地域課題のうち「障害者の高齢化」「社会資源の情報収集・共有」について，課題解決が困難な要因，解決を促進する要因・活用できる人・社会資源，解決に向けたアプローチをグループワーク形式で検討</li> </ul> <p>奇数月：地域生活拠点事業及びケースレビュー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域生活拠点事業の対象者像の共有や対象となる可能性が高いケース，その他新規ケースや困難ケース等のケースレビューを実施</li> </ul>
(4) プロジェクトチーム	回	なし
(5) 運営会議	12 回	各会議体の進捗管理，課題解決に向けて区自立支援協議会全体の活動の検討

## 1 今年度の主な取組み

### (1) 実務者ネットワーク会議エリア会

#### ①鶴ヶ谷周辺エリア会

障害のある方もサービスや地域の方たちに見守られながら地域で暮らしている事を知るために、「障害のある方の生活をイメージしながら」という視点を大切に。「私たちの生活と変わらない」という意見もあり、どのように暮らしていくかは支える側次第ということを体験して頂いた。

#### ②幸町周辺エリア会

地域での課題となっている障害者の高齢化や8050問題を踏まえた上で、平時や災害時に地域全体で関わられるようにするために、民生委員児童委員が知った問題を具体的にどのようにつなげていくかを共有した。また、区役所や相談支援事業所が地域の相談窓口として、地域包括支援センターの協力を頂きながら民生委員児童委員や各事業所等と情報共有し協働連携していくか、実践的に地域で支援を行う方策を考えた。

#### ③岩切・高砂周辺エリア会

障害のある方も一生活者として暮らしていることを再認。児童を対象とする事業所、地域に新しくできた事業所の参加があり、当事者団体、参加された民生委員との相互理解やつながりも得られた。

### (2) 実務者ネットワーク会議全体会

地域包括ケア推進という国の動き、地域の実情、参加者の声を踏まえ、「障害者の高齢化」をテーマとして開催。地域で暮らす当事者家族や支援者からの話を直接聞くことにより、その思いや課題を共有することができた。グループワークには地域の方や様々な分野の関係機関、当事者等が参加し、地域で生活する障害者等のつながりが大切であり、継続していきたいとの意見が多く上がった。

### (3) 障害者相談支援事業所等連絡会議

#### ・地域課題の検討

障害者の高齢化については、①本人の加齢による体調変化、②家族の高齢化、③障害福祉サービスに関する課題、④介護保険への移行や多機関連携といった課題が挙げられた。社会資源の情報収集・共有は、①グループホームのマッチング、②災害時の情報収集、③社会資源の情報収集といった課題が挙げられた。

#### ・地域生活拠点事業について/ケースレビュー

今年度より地域生活拠点事業のモデル事業が全市で展開されるにあたり、対象者像の共有や対象となる可能性が高いケースのレビューを実施。地域生活拠点事業の事前登録に至ったケースはなし。また、多機関協働でのアセスメントや支援方針、支援の必要度の検討を行うことを目的とし、年度後半は、地域生活拠点の対象者にとどまらず、新規ケースや困難ケース等のケースレビューを実施した。

## 2 現状における課題（地域ニーズや課題、協議会運営上の課題など）

- ・指定特定相談支援事業所の参加が限られているため、情報共有や地域課題の解決、社会資源の開発に取り組んでいけるよう働きかけが必要。
- ・障害者相談支援事業所等連絡会議では、地域課題の検討は今年度初めての取り組みで、課題の整理や分析は行うことができたが、解決に向けたアプローチまでは検討することが難しいものもあった。効果的なレビューの実施方法等今後検討していく。
- ・高齢分野等の障害分野以外の機関との連携を深めるための取り組み、地域づくりを主とした取り組みを多く行っている現状の中で自立協に求められている役割の整理、市自立協や地域部会との効果的な連動が課題。

## 3 課題に対する次年度以降の取組予定

- ・次年度も同様に開催予定。

## 令和元年度 若林区障害者自立支援協議会 取組状況

### ○実施状況

会議	年間実施 予定回数	主な内容・議題等（簡潔に記載してください）
(1) 全体協議会	1回	区地域ケア会議との合同開催。愛称「IGASU 会議」 「ひきこもり等地域とつながりにくい方の現状と課題」 についてグループワーク実施。
(2) 実務者ネットワー ク会議	2回	【第1回】令和元年8月8日（木）参加者：63名 内容：経験年数別のグループワーク ① なぜこの職を選んだか？（1年目～3年目） ② 「障害児から障害者への移行までの流れについて」 （4年目～9年目，主任，サビ管など） 【第2回】令和2年2月27日（水） 内容：「知って得する 65歳問題」 ① 話題提供：「障害福祉サービスから介護保険サー ビスへの移行～よりそいワーキング65の取り組み～」 太白区障害高齢課 ② グループワーク
(3) 障害者相談支援事 業所等連絡会議	10回	支援の必要度に応じたケースレビュー，地域生活支援 拠点事業に向け，ひなたぼっこ職員を交えてのケースレ ビュー，事例検討等を実施。
(4) チーム プロジェクト	1回	日時：令和元年11月4日（月・振休） 延べ参加者：約500名 午前の部 ① 手話体験コーナー（参加者：21名） ② 盲導犬ふれあいコーナー（参加者：400名程度） 午後の部 障害理解に関するクイズコーナー（参加者：70名） 自立くんによるPR ブース付近でのPRのほか，区民まつり参加団体の うち，ゆるキャラがいる団体のPRタイムに参加。
(5) 運営会議	12回	上記各活動の企画・運営について 市自立支援協議会などの各会議等について情報共有

## 1 今年度の主な取組み

昨年度に引き続き、活動テーマを以下の3点とした。

- ① 障害のある方やその家族への支援力の向上
- ② 障害に関する普及啓発活動
- ③ 支援ネットワークの形成

### 【相談支援事業所等連絡会】

活動テーマの①、③を目的に実施している。特に、年度後半は地域生活支援拠点事業実施に向け、事業対象者のイメージを共有するため、「緊急対応が必要なケース」にはどんなケースがあるか KJ法を用いながら共有する作業や、また、ひなたぼっこ職員を招き、各事業所のケースのうち、緊急対応が予想されるケースについてケースレビューを行った。4月と8月には、昨年度から引き続き「ゴミ屋敷への支援」をテーマに地域包括支援センター連絡会との合同で実施した。4月には本人理解の一環とし南部アーチル職員を講師に勉強会、8月には福祉分野以外との連携をテーマに、若林区道路課、衛生課職員を交えて事例紹介を行った。

### 【実務者ネットワーク会議】

第1回は、支援者間のネットワーク形成を主な目的に据えながら、若手職員を支えるために必要な体制づくりや、サービス移行期の支援の在り方について課題抽出することも目的とし、経験年数別のグループワークを実施した。初任者対象のグループワークでは、悩んだ時の相談先やストレス発散方法などの共有ができ有意義だったとの感想が多く、若手職員を支える上で事業所を超えた横のつながりを確保することが課題と考えられた。サービス移行期の支援については、今回は学齢期→成人期への移行期を取り上げてグループワークを行ったが、就労系施設と生活介護施設での受け入れのタイミングや知りたい情報の差異が大きいこと、特に生活介護施設の場合、受け入れ決定から卒業までの時間が短いことでの課題が大きいことが挙げられた。

第2回は、サービス移行期の支援の在り方として、「65歳問題」を取り上げ、太白区自立支援協議会の取り組みについて話題提供を受け、若林区の課題についてのグループワークを行う予定である。

### 【若林区民ふるさとまつりでの普及啓発活動】

平成29年度から継続して、区民まつりの場での普及啓発活動を行っている。今年度は、手話ユーザーを講師として招き、手話を用いたコミュニケーション場面の体験を行うブースを新たに実施した。体験できた人数に限りはあったが、参加者の手話への関心は高く、質問も多く出ていた。盲導犬ふれあいコーナーやクイズコーナーは親子連れの参加者が多く、幅広い世代に啓発活動ができた。

## 2 現状における課題（地域ニーズや課題、協議会運営上の課題など）

①地域生活支援拠点事業に向けて：障害種別により、緊急対応が生じる状況、必要な資源に差があることや、緊急対応に至らないための支援を考える中で、不足している資源や支援の工夫が必要であることが課題として挙げられている。特に知的障害や重度重複障害のケースにおいて、家族の高齢化や疾病等によるリスクが高く、緊急時に対応できる環境を整えることの困難さが目立っている。

②高齢者部門との連携を昨年度から引き続き行っているが、障害者への理解や関わりの部分で、支援者も含め「難しい」「どうかかわっていいかわからない」というイメージが依然として持たれやすい。今後も連携を継続していく中で、支援事例の積み重ね、積み重ねを共有する機会を持つこと、合同連絡会やIGASU会議でのテーマ設定、内容等の工夫等の検討が必要である。

## 3 課題に対する次年度以降の取組予定

次年度も活動テーマは継続し各会議体の企画を行っていく。相談支援事業所等連絡会において、緊急対応が予測されるケースの予防策や不足している資源をどう補うかのアイデア出しなど、具体的な事例を取り扱いながらより検討を深めていく予定である。

## 令和元年度 太白区障害者自立支援協議会 取組状況

### ○実施状況

会議	年間実施 予定回数	主な内容・議題等（簡潔に記載してください）
(1) 全体協議会	1 回	太白区高齢者障害者地域会議として開催。 内容：○当事者講話 ○講話とグループ毎のワークショップ形式 「災害に備え地域のつながりを強めるために各団体が できることを考える」
(2) 実務者ネットワー ク会議	27 回	○3 エリアに分かれて開催。 今年度は2つのエリアの合同開催が3回実施。 内容は、支援者間での情報交換がメイン。 ○3 エリア合同の会（全体会）を2月に1回実施した。 ⇒テーマは「成年後見制度について知る」
(3) 障害者相談支援事 業所等連絡会議	12 回	・ケースレビュー：委託相談支援事業所、区役所、専門機関の ケース中心に区内の重要なケースについてレビューを実施。 ⇒今後ケースの課題の内容について分類し、より重点的に関 わるケースについて各機関共通の指標を整理する予定。 ・事例検討：今年度は GSV 形式で実施。また、高齢分野との協 働ケースも増えている現状から、1月に包括支援センターと 合同の事例検討を実施した。
(4) チーム プロジェクト	よりそいワーキ ング PT 3 回	・平成 28 年度から地域包括支援センターと合同で、いわゆる 65 歳問題についてワーキングを実施していた。 ・障害福祉サービスの利用からスムーズに介護保険サービスに 移行するために相互の担当者がどのように情報交換をすれ ばよいか、制度の相互理解・連携の仕方について議論を重ね、 支援者向けパンフレットを作製した。 ⇒パンフレットのデータは太白区のホームページに掲載予定。 ・目的が達成されたため、よりそいワーキングとしては終結す ることとなっている。
(5) 運営会議	12 回	委託相談支援事業所と公所（南部アーチル）、区で月に 1 回実 施。相談支援事業所連絡会の持ち方や、事例検討について、地 域の情報などを交換し、活動に反映していくための実務者の会 議となっている。
その他の活動		
地域の認知症カフェ・サロ ン活動・相談会への参加	14 回	地域包括支援センターで実施している地域ごとの認知症カフ ェ、サロン活動、各地域で実施されている相談会にて、「会場を

		提供してほしい」「地域の方が気にしている障害者と思われる方の件で相談に乗ってほしい」という希望があり、区担当者や委託相談支援事業所の職員が相談の場に出向いた。
--	--	---

## 1 今年度の主な取組み

### ○高齢分野との連携を意識した活動

元々太白区では高齢と合同の会議体でテーマを設け取り組んでいた。

#### ①全体協議会（太白区高齢者障害者地域会議）

- ・令和元年度は、身体障害の方と、認知症の当事者の方からの講話を実施。当事者より「自分たちも地域の一員として生活したい」「自分たちの役割も果たしたい。地域に貢献したい」という思いを語ってもらった。
- ・高齢者、障害者も含めた地域づくりの中でも「防災」というテーマで講師の指導の下、ワークショップを展開。

#### ②障害者相談支援事業所等連絡会議

- ・事例検討について、8050問題を背景とする高齢分野との協働支援ケースも多くなっていることから、1月に地域包括支援センターと合同での事例検討を開催。

### ○区内の重要なケースの蓄積・整理

障害者相談支援事業所等連絡会議

- ・令和元年度は、重点的に関わる対象者のケースレビューを行った。（主に区障害高齢課と委託相談支援事業所、ここねっとより提出。）また、重点的に関わる対象者の蓄積を行い、レビュー実施後も支援の見直しが継続的に行えるよう再検討時期の設定も行った。
- ・事例について、共通の理解が図られるよう、【生活課題】、【影響を及ぼす環境要因】について事例から分類し、整理した。

### ○地域の各機関で開催される事業への参加

- ・地域包括支援センター、町内会、地区社会福祉協議会で主催するサロンや相談会などに参加。  
⇒例）地域の認知症カフェの会場を提供し、来所者の方との交流や主催側のスタッフとの交流・相談を受ける。サロンの場に出張相談として出向く。  
地域の活動を共にすることで、より身近に感じてもらえる、という効果が出ていた。

## 2 現状における課題（地域ニーズや課題、協議会運営上の課題など）

自立支援協議会の活動を通じ、地域に出向き地域の活動する重要性を感じるころだが、障害分野での地区活動の実態は地域包括支援センターとの動きと比較すると少ない。

先駆的に活動している地域包括支援センターの動きを学び、地域活動への参加を積極的にしていく必要がある。

## 3 課題に対する次年度以降の取組予定

- ・障害児者も地域の一員として生活できるように地域の人たちを巻き込んだ支援体制構築を検討する。  
例⇒障害分野でも高齢分野で実施している地域個別ケア会議を実施する。
- ・高齢・障害分野合同の事例検討を継続する。
- ・既存の地域活動との協働を図り、地域での活動を推進する。  
例⇒清掃活動、地域のお祭り、イベント、相談会などに参加する。

## 令和元年度 泉区障害者自立支援協議会 取組状況

### ○実施状況

会議	年間実施 予定回数	主な内容・議題等（簡潔に記載してください）																								
(1) 全体協議会	1 回	令和2年2月6日：泉区地域ケア会議と合同開催 「誰もが健康で安心した生活が営める地域づくりを目指して～『つながり（連携）』『支えあい』をテーマに～」 各会議体の活動報告とグループトーク。																								
(2) 実務者ネットワーク会議	12 回	ミニ講話, グループワーク等 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="text-align: center;">4 月</td><td>今年度のよめごと会議について</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">5 月</td><td>事業所交流～とことんつながる～</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">6 月</td><td>事業所見学ツアー「企画編」</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">7 月</td><td>障害者スポーツ体験～とことん余暇～</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">8 月</td><td>当事者の声を聴く</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">9 月</td><td>初任者交流～とことんつながる初任者編～</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">10 月</td><td>事業所見学ツアー「報告編」</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">11 月</td><td>健幸プロジェクト共同企画～とことん健康～</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">12 月</td><td>医療との連携</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">1 月</td><td>とことん障害と高齢</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">2 月</td><td>今年度の振り返り, 来年度の計画</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">3 月</td><td>オモカルミーティング～とことん支援の振り返り～ (予定)</td></tr> </table>	4 月	今年度のよめごと会議について	5 月	事業所交流～とことんつながる～	6 月	事業所見学ツアー「企画編」	7 月	障害者スポーツ体験～とことん余暇～	8 月	当事者の声を聴く	9 月	初任者交流～とことんつながる初任者編～	10 月	事業所見学ツアー「報告編」	11 月	健幸プロジェクト共同企画～とことん健康～	12 月	医療との連携	1 月	とことん障害と高齢	2 月	今年度の振り返り, 来年度の計画	3 月	オモカルミーティング～とことん支援の振り返り～ (予定)
4 月	今年度のよめごと会議について																									
5 月	事業所交流～とことんつながる～																									
6 月	事業所見学ツアー「企画編」																									
7 月	障害者スポーツ体験～とことん余暇～																									
8 月	当事者の声を聴く																									
9 月	初任者交流～とことんつながる初任者編～																									
10 月	事業所見学ツアー「報告編」																									
11 月	健幸プロジェクト共同企画～とことん健康～																									
12 月	医療との連携																									
1 月	とことん障害と高齢																									
2 月	今年度の振り返り, 来年度の計画																									
3 月	オモカルミーティング～とことん支援の振り返り～ (予定)																									
(3) 障害者相談支援事業所等連絡会議	12 回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各団体からの支援状況・近況の報告, 支援上の課題の情報共有。</li> <li>・支援上の課題への具体的なアプローチの検討, および実践。</li> <li>・GSV を用いた事例検討。</li> <li>・成功事例の共有。</li> <li>・相談支援上の課題や勉強会等スキルアップを図るため, 相談支援事業所（委託, 指定特定）及び区障害高齢課に参加者を絞り連絡会を開催。（4回）。</li> </ul>																								
(4) チームプロジェクト	健幸 PT	14 回	区内小・中学校, 特別支援学校の障害児に対する健康支援に関する実態調査の分析・まとめ。いず☆ちゅう健幸祭へのブース出展。よめごと会議とのタイアップ。全体会での発表。																							
	つながる PT	4 回	よめごと会議とのタイアップ。交流会, 事業所見学ツアーの実施。																							

(5) 運営会議	12回	各会議体での進捗管理。地区民児協への広報活動の企画調整。研修会の企画・運営。部会等の報告。
その他の活動		
協議会主催研修会	1回	令和2年1月15日(水) 13:30~16:00 「みんなで知ろう,発達障害。~地域で,私で,できること~」 内容:講師・当事者による講話と,グループワーク 参加者:75名
高齢分野との連携および研修会	8回	・高齢分野との合同研修会(3回) ・地域包括支援センターとの合同会議(連絡会議,介護予防のための地域ケア個別会議)(5回)
若者の集い	2回	・連絡会議メンバー有志による,いず☆ちゅう健幸祭へのブース出展,およびそれに伴う事前打ち合わせ。

### 1 今年度の主な取組み

#### 1. 障害福祉分野への広報活動を強化

- ・実務者ネットワーク会議,各プロジェクト,研修会の取り組みを通じた広報活動。
- ・地区民生委員児童委員定例会,包括圏域会議等への参加。

#### 2. 参加機関の支援力の向上・スキルアップ

- ・連絡会議,実務者ネットワーク会議にて,初任者研修,事業所間見学や実習を実施。
- ・連絡会議にて事例検討を実施。

#### 3. 泉区内の支援課題の把握・整理

- ・連絡会議にて,昨年度区として取り組める課題と整理したものについて,具体的な取り組みを検討。事業所間実習や「若者の集い」として実践。
- ・健幸プロジェクトにて,学校機関での障害児における健康づくりに関する支援上の課題を把握するために実施したアンケート調査の結果を分析しまとめ,結果を各学校へフィードバックした。

### 2 現状における課題(地域ニーズや課題,協議会運営上の課題など)

- ・地域生活支援拠点との連携や事前登録に向けた取り組みとして,実際の事例を積み上げる必要がある。
- ・より参加者のスキルアップが図れる事例検討の方法について,検討が必要。
- ・一貫性・継続性のある活動をしていくためにも,担当事業所や職員の変更などにも対応できる内容や実施頻度を検討していく必要がある。
- ・各会議体の整理や,企画運営に係る参画者を拡大していけるような取り組みが必要。
- ・市や他区協議会との連動・連携強化が必要。

### 3 課題に対する次年度以降の取組予定

- ・現在,運営会議にて次年度の取り組みを検討中。今年度の実践をベースにしつつ,個別ケースの地域生活により還元でき,今ある課題の解決に繋がるような活動を行っていく。